アラートを修正する

NetApp Console local deployment

NetApp
August 10, 2026

目次

アラートを修正する 1
NetApp Console ローカル展開のアラートについて 1
アラートの重大度と影響範囲 1
アラートの発生源と範囲 1
アラート通知ルール 2
NetApp Console ローカル展開でアラートを監視および調査する 2
利用可能なアラート 3
アラートダッシュボードを表示する 3
すべてのアラートを表示 3
システム別にアラートを表示する 4
アラートを調査する 4
アラートを修復する 5
アラートを分析する 5
アラートをCSVファイルにエクスポート 6
NetApp Console ローカル展開でアラートの通知ルールを設定する 7
開始する前に 7
通知ルールを表示する 7
通知ルールを作成する 8
通知ルールを有効または無効にする 9
通知ルールをミュートする 9
通知ルールを削除する 10
関連情報 10
NetApp Console ローカル展開におけるストレージクラスのドリフトの修正 11
ドリフトを修正する 11
関連情報 12
NetApp Console ローカル展開におけるアラート修復アクション 12
是正措置 12

アラートを修正する

NetApp Console ローカル展開のアラートについて

NetApp Console のローカル展開により、オンプレミス ONTAP クラスターおよび NetApp Backup and Recovery 操作における健全性の問題を特定するアラートが生成されます。

コンソールのローカル展開は、ONTAPクラスターとバックアップおよびリカバリ操作からのアラートを単一のビューに統合します。アラートページには、ダッシュボード、アラート一覧、およびシステムビューが含まれており、組織全体のアラートを確認したり、特定のフリートやシステムに絞り込んでアラートを表示したりできます。各アラートは、影響を受けるシステム、その重大度、および影響範囲を示します。

コンソールのローカル展開でアラートを使用して、次のことを行います。

- 容量、接続性、データ保護、パフォーマンス、およびセキュリティの問題を検出します。
- アラートの優先順位を、重要度と影響範囲に基づいて決定します。
- システムマネージャーまたはワークロードアナライザーでアラートを開き、ページにガイド付きまたは自動の Fix-It アクションが表示されたら、それを実行します。
- 指定されたアクセス権限を持つユーザーにメールで通知を送信するか、Webhookを介してアラートデータを外部システムに送信します。
- アラートリストをCSVファイルにエクスポートして、オフラインで分析します。

アラートの重大度と影響範囲

各アラートには、重大度と影響範囲が含まれています。

- *重大度*は緊急度を示し、高い順から低い順に、Critical、Major、Minor、Warning、Info となります。
- *影響範囲*は、容量、接続性、データ保護、パフォーマンス、セキュリティといった影響を受ける領域を示します。

アラートの発生源と範囲

- *ONTAPアラート*は、NetApp Consoleのローカル展開によって検出されたオンプレミスクラスター上のONTAP イベント管理システム（EMS）から発信されます。"ONTAP EMSと利用可能なアラートの詳細をご確認ください。"
- *NetApp Backup and Recovery alerts*は、Backup and Recoveryの操作から発生します。"NetApp Backup and Recovery のアラートの詳細をご確認ください。"
- 閲覧できるフリートは、お客様の権限によって決まります。表示範囲を組織全体、特定のフリート、または個々のシステムに限定します。「システムの状態」タブにはシステムごとの状態が表示され、「アラート」タブには選択した範囲の現在のアラート一覧が表示されます。
- CSVエクスポートには、現在のスコープ、検索テキスト、およびフィルターが反映されます。

アラート通知ルール

どの警告が通知を生成するか、そして誰が通知を受け取るかを決定する通知ルールを作成します。通知ルールには、以下の特徴があります：

- サービス（ONTAP 管理や Backup and Recovery など）、重大度、影響範囲、および対象システムに関するアラートと照合します。
- メール配信の場合、指定されたアクセス権限を持つユーザーに通知を送信します。Webhook配信の場合、アラートデータは設定されたエンドポイントに送信されます。そのデータへのアクセスは、NetApp Consoleのローカル展開ではなく、受信側のアプリケーションによって制御されます。
- これは特定のシステムに適用されるものであり、フリート全体には適用されません。
- 計画メンテナンス期間中は、予期されるアラートを抑制するために、この機能をミュートすることができます。

コンソールのローカル展開には、インストール直後に有効になるデフォルトの通知ルールが含まれています。デフォルトのルールでは、すべてのサービスとシステムを監視してクリティカル重大度のアラートを検出し、コンソール通知センターにのみ通知を送信します。メールやWebhookによる配信は、設定するまで構成されません。このルールを表示および調整したり、環境に合わせてカスタムルールを作成したりできます。

情報レベルのアラートはアラートページに表示されますが、情報レベルの重大度を含むルールを明示的に作成しない限り、通知によって配信されません。

関連情報

- "アラートを監視し、調査する"
- "アラート通知ルールの作成と管理"
- "NetApp Console ローカル展開における ONTAP アラートについて"

NetApp Console ローカル展開でアラートを監視および調査する

NetApp Console のローカルデプロイメントでアラートを監視・調査し、ストレージの健全性を維持して障害を最小限に抑えます。

組織全体または特定のフリート全体のアクティブなアラートを表示し、深刻度と影響範囲に基づいて優先順位を付け、根本原因を調査することで、問題がエスカレートする前に解決できます。アラートに推奨されるアクションや「Fix It」オプションが含まれている場合、調査から直接修復作業に移行できます。

必須アクセスロール

Federation admin と Federation viewer を除くすべてのロール。Federation admin または Federation viewer ロールを持つユーザーは、アラートを表示できません。"アクセスロールについて"。

ONTAP アラートの場合、アラートページから直接 System Manager や Workload Analyzer などのツールにアクセスして、問題の調査と解決を行うことができます。

外部への報告のために、アラートリストをCSVファイルにエクスポートしてオフラインで分析することができます。

また、通知ルールを設定して、メールまたはWebhookでアラートを受信することもできます。"アラート通知の設定方法について説明します"。

利用可能なアラート

NetApp Console のローカル展開は、ONTAP および NetApp Backup and Recovery のアラートをサポートします。

- "NetApp Console ローカル展開における ONTAP アラートについて"
- "NetApp Backup and Recovery のアラートの詳細をご確認ください。"

アラートダッシュボードを表示する

アラートダッシュボードを使用すると、選択した範囲における現在のアラートアクティビティをすばやく確認できます。ダッシュボードには、発生中のアラートが深刻度と影響範囲別にまとめられており、過去24時間のアラート分布を示すグラフも含まれているため、傾向を素早く把握できます。

ダッシュボードをフィルタリングして、重要なアラートや特定の影響範囲に関するアラートに絞り込むことができます。

手順

1. **Health > Alerts > Overview** を選択します。
2. スコープセレクターから、以下のいずれかを選択してください。
   - すべて（デフォルト）を選択すると、アクセス権のあるすべてのフリートのアラートが表示されます。
   - 特定のフリートに関するアラートのみを表示する
3. 表示する必要のあるアラートに応じてダッシュボードをフィルタリングします。フィルタリング対象には以下が含まれます：
   - 深刻度（重大、警告、または情報）
   - 影響領域別にグループ化されたクリティカルアラート
   - 影響範囲（セキュリティ、保護、可用性、パフォーマンス、容量、または構成）

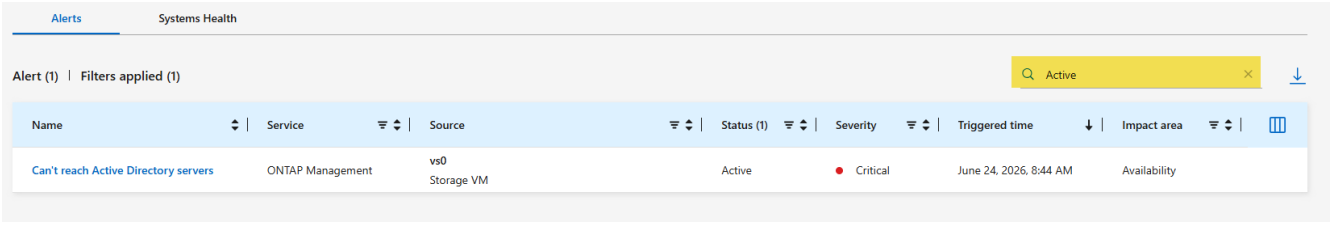
すべてのアラートを表示

選択したスコープのアクティブなアラートの全リストを表示するには、「アラート」タブを使用します。リストは現在の組織またはフリートのスコープを反映して更新され、名前や説明で特定のアラートを検索できます。

手順

1. **Health > Alerts > Overview** を選択します。
2. スコープセレクターから、以下のいずれかを選択してください。
   - すべて（デフォルト）を選択すると、アクセス権のあるすべてのフリートのアラートが表示されます。
   - 特定のフリートに関するアラートのみを表示する

3. 選択したスコープの有効なアラートの全リストを表示するには、*アラート*タブを選択してください。
4. 必要に応じて、名前または説明で特定の警告をリスト内から検索できます。



システム別にアラートを表示する

フリートまたは組織内の特定のシステムに関するアラートを表示できます。

手順

1. **Health > Alerts > Overview** を選択します。
2. スコープセレクターから、以下のいずれかを選択してください。
   - すべて（デフォルト）を選択すると、アクセス権のあるすべてのフリートのアラートが表示されます。
   - 特定のフリートに関するアラートのみを表示する
3. **Systems health** タブを選択すると、選択した範囲内のシステムに関連付けられているアラートの概要が表示されます。
4. 該当システムの行にある「アラートを表示」を選択すると、そのシステムに関連付けられているアクティブなアラートの全リストが表示されます。

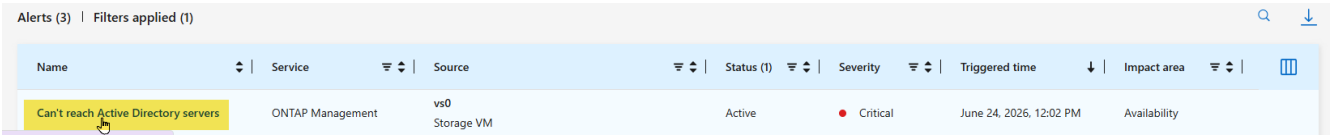
アラートを調査する

アラートを調査することで、何がアラートを引き起こしたのか、誰が通知を受け取ったのかを確認できます。

ONTAP アラートを調査する際、アラートを生成したシステムの System Manager インターフェースに直接アクセスして、詳細情報を確認したり、必要な措置を講じたりすることもできます。

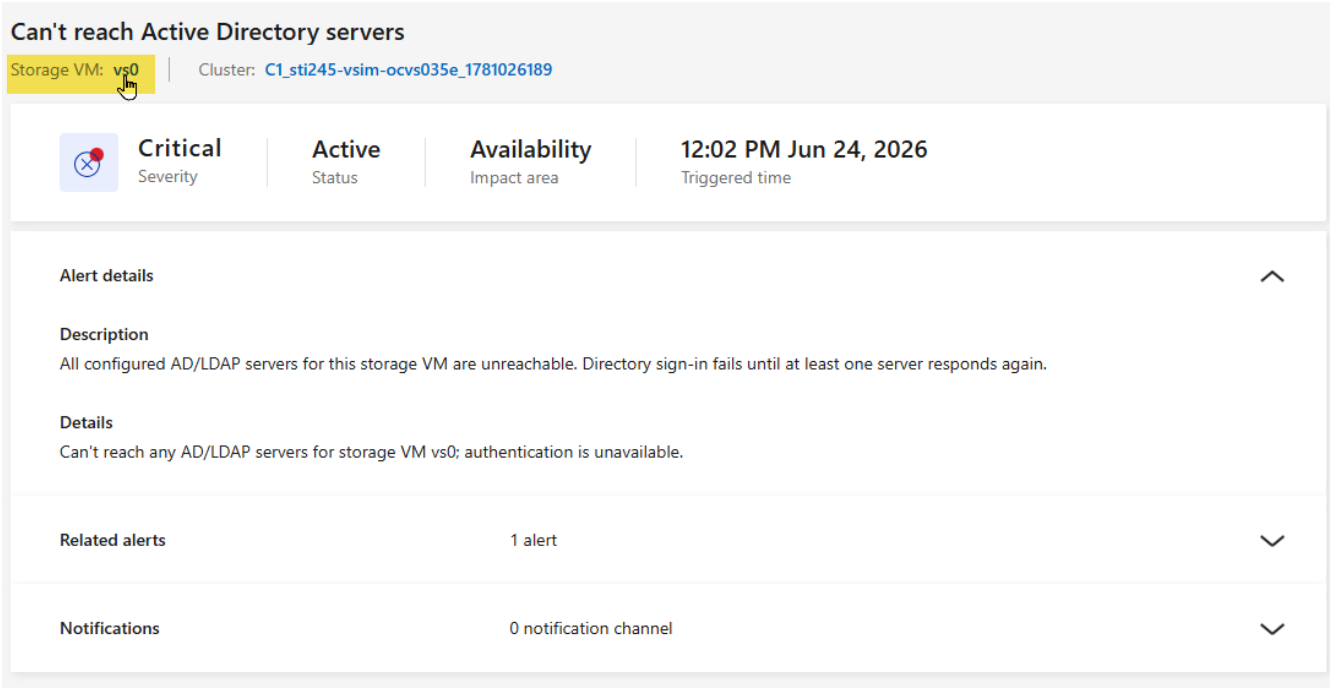
手順

1. **Health > Alerts > Overview** を選択します。
2. スコープセレクターから、以下のいずれかを選択してください。
   - すべて（デフォルト）を選択すると、アクセス権のあるすべてのフリートのアラートが表示されます。
   - 特定のフリートに関するアラートのみを表示する
3. どちらのタブでも、調査したいアラートの名前を選択すると、その詳細が表示されます。



4. 該当する場合は、アラートを生成したシステムの System Manager インターフェイスを開くために、VM

またはクラスタ名を選択してください。



アラートを修復する

アラートに推奨されるアクションまたは「Fix It」オプションが含まれている場合は、アラートの詳細画面から離れることなく、それらを使用して調査から修復へと移行してください。

手順

1. **Health > Alerts > Overview** を選択します。
2. スコープセレクターから、以下のいずれかを選択してください。
   - すべて（デフォルト）を選択すると、アクセス権のあるすべてのフリートのアラートが表示されます。
   - 特定のフリートに関するアラートのみを表示する
3. 対処したいアラートを選択してください。
4. アラートの詳細を確認し、推奨される対処方法、または利用可能な場合は「Fix It」オプションを選択してください。
5. ガイドの手順に従って修復措置を適用し、その後アラートの詳細画面に戻ってアラートの状態を確認してください。

その措置によって問題が解決した場合、その範囲におけるアラートはアクティブとして表示されなくなります。アラートが引き続き有効な場合は、アラートの詳細を再度確認し、調査を継続してください。

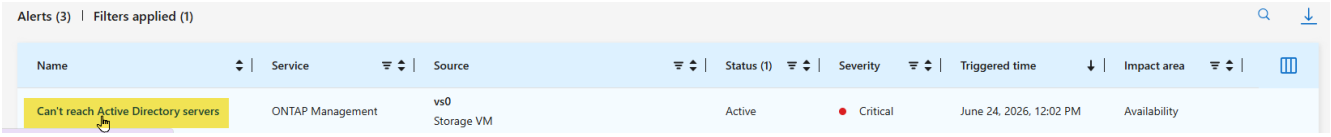
アラートを分析する

ワークロードアナライザーでONTAPアラートを分析し、何がトリガーとなったかを把握できます。

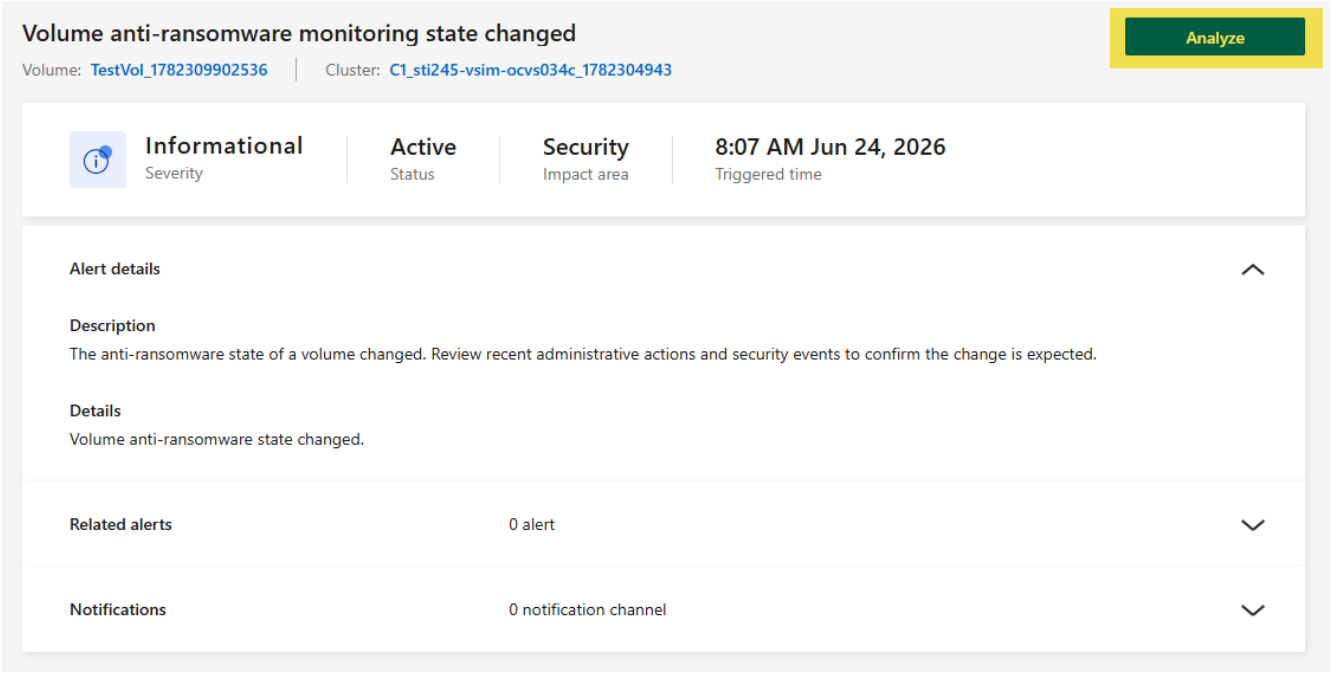
ONTAP アラートを調査する際、アラートを生成したシステムの System Manager インターフェースに直接アクセスして、詳細情報を確認したり、必要な措置を講じたりすることもできます。

手順

1. **Health > Alerts > Overview** を選択します。
2. スコープセレクターから、以下のいずれかを選択してください。
   - すべて（デフォルト）を選択すると、アクセス権のあるすべてのフリートのアラートが表示されます。
   - 特定のフリートに関するアラートのみを表示する
3. 選択した範囲のアクティブなアラートの全リストを表示するには、**Systems health** タブを選択してください。
4. どちらのタブでも、調査したいアラートの名前を選択すると、その詳細が表示されます。



5. 該当する場合は、*分析*を選択して、アラートを生成したシステムのワークロードアナライザーインターフェイスを開きます。



6. アラートがトリガーされた期間をカバーする時間範囲を入力し、*分析*を選択して分析結果を表示します。"ワークロードアナライザーについて説明します。"

アラートをCSVファイルにエクスポート

NetApp Console のローカルデプロイメントのアラートリストを CSV ファイルにエクスポートして、オフラインでの分析やレポート作成に使用します。エクスポートされるデータには、現在のスコープ（組織またはフリート）、検索テキスト、およびフィルターが反映されます。

手順

1. **Health > Alerts** を選択し、アラート タブを選択します。

2. 対象範囲（組織またはフリート）を設定し、エクスポートに含めるフィルターや検索テキストを適用します。
3. アラートリストをCSVファイルにエクスポートするには、ダウンロードアイコンを選択してください。

NetApp Console ローカル展開でアラートの通知ルールを設定する

NetApp Console ローカル展開で通知ルールを設定して、どのアラートが通知を発生させるか、誰が通知を受け取るか、そしてどのように通知が配信されるかを制御します。

必要なアクセスロール

スーパー管理者、組織管理者、ストレージ管理者、運用サポートアナリスト、または NetApp Backup and Recovery の管理者ロールのいずれか。"アクセスロールについて"。

通知ルールを使用することで、適切なアラートを環境に合ったチャネルを通じて適切な担当者にルーティングし、お客様に関係のないアラートによるノイズを削減できます。通知ルールはアラートページを補完するものです。アラートワークフローでアラートを調査または修復した後、ルールを使用して、今後同様のアラートがどのように配信されるかを制御できます。

通知ルールは、サービス、重要度、影響範囲など、お客様が定義した条件に基づいてアラートを照合し、選択したチャネルを通じて通知を配信します。Console のローカル展開には、表示および調整可能なデフォルトの通知ルールが含まれており、独自のカスタムルールを作成することもできます。メンテナンス期間などの計画されたイベント中に通知を一時的に抑制するために、ルールをミュートすることもできます。

- "ONTAP EMSと利用可能なアラートの詳細をご確認ください。"

開始する前に

- メールで通知を配信するには、組織管理者がコンソールのローカル展開環境でメールサーバーを設定する必要があります。外部システムに通知を送信するには、組織の管理者がWebhookを設定する必要があります。手順については、"通知配信の設定"を参照してください。
- コンソールのローカル展開通知センターはデフォルトで通知を表示するため、コンソール内通知に関する追加の設定は不要です。

通知ルールを表示する

通知ルールページは、組織に適用されるすべてのルールを確認および管理するための中心的な場所です。各ルールにはその主要な属性が表示されるため、アラートの動作を迅速に評価し、調整することができます。

手順

1. 左側のナビゲーションから、**Health > Alerts** を選択します。
2. 「通知設定」を選択します。
3. リストに記載されているルールを確認してください。各ルールには、その有効状態、名前、監視対象のサービスと重要度レベル、通知を受信する権限を持つ役割、有効な配信チャネル、最終更新日時、およびスケジュールされたミュート期間が表示されます。
4. 特定のルールを見つけるには、フィルターと検索コントロールを使用して、アクティブ状態、サービス、重要度、役割、チャネル、またはミュート状態によって絞り込みます。

通知ルールを作成する

通知ルールを作成して、通知をトリガーする条件と、その通知の配信方法を定義します。

> フリートに対して通知ルールを設定することはできません。特定のシステムに対してのみ設定できます。多数のシステムが存在する大規模な環境では、システムごとにルールを重複させるのではなく、重要度に基づいてより広範なルールを作成することを検討してください。たとえば、すべてのシステムを対象とする1つの Critical ルールを包括的なルールとして設定し、異なるルーティングや受信者が必要なシステムには、追加のターゲットルールを設定するといった方法です。

全システムにおける重大アラートの通知ルール例

発生源がどのシステムであっても、重大なアラートを見逃さないようにしたいとします。ストレージ管理者向けに、すべての重大なアラートを Console Notification Center にルーティングする包括的なルールを作成できます。

この例では、以下の設定でルールを作成します。

- サービス：すべて
- 重大度：Critical
- **IAM**ロール：ストレージ管理者
- **System**：（すべてのシステムに適用する場合は、この欄を空欄にしてください）
- 配信方法：Console Notification Center

このルールが適用されると、ストレージ管理者は、すべてのシステムにおける重大なアラートが発生するたびに、Console に通知を受け取ります。このルールは基準となるものであり、より具体的なルールを追加することで補完できます。

ストレージ管理者の容量アラートを対象とした通知ルールの例

ストレージ管理者が特定の運用システムにおける重大な容量問題に即座に対応する必要があるものの、重要度の低いアラートが受信トレイに大量に届くのは避けたいとします。特定のシステムで重大な容量アラートが発生した場合にのみ、ストレージ管理者にメールを送信するターゲットルールを作成できます。

この例では、以下の設定でルールを作成します。

- サービス：ONTAP管理
- 重大度：Critical
- 影響範囲：容量
- **IAM**ロール：ストレージ管理者
- システム：<system_name>
- 配信方法：メール

このルールが適用されている場合、Console のローカル展開では、容量に関する重大なアラートが発生した際に、指定されたシステムのすべてのストレージ管理者に電子メールが送信されます。警告や情報提供など、重要度の低いアラートはメールを生成しないため、チームは緊急の対応が必要な問題に集中できます。

手順

1. 左側のナビゲーションから、**Health > Alerts** を選択します。
2. 「通知設定」を選択し、次に「ルールの追加」を選択します。
3. ルールが一致する条件を定義します。
   - ルール名：簡潔で分かりやすい名前を入力してください。この項目は必須です。
   - ルールの説明：必要に応じて、ルールの目的に関する追加情報を入力してください。
   - サービス：ルールが適用される ONTAP またはプラットフォームサービスを1つ以上選択してください。
   - 役割：ルールがトリガーされたときに通知を受け取るためにユーザーが持つ必要があるアクセス役割を選択します。
   - 重要度レベル：ルールが監視する重要度レベル（Critical、Warning、Error、Information など）を選択します。
   - 影響範囲：容量やパフォーマンスなど、一致させる運用領域を選択します。
   - アラート名：ルールをトリガーする特定のアラートの種類を選択します。
   - システム：ルールを適用するシステムコンテキストを選択します。
4. 通知の配信チャネルを選択します：
   - メール：選択した役割を持つユーザーにアラートメールを送信します。設定済みのメールサーバーが必要です。
   - **Webhook**：アラートデータを外部システムに送信します。設定済みのWebhook連携を選択する必要があります。
   - **Console Notification Center**：選択されたロールを持つユーザーに対するリアルタイムアラートを表示します。
5. 必要に応じて、メンテナンス期間などの計画された期間中にこのルールからの通知を抑制するには、*通知をミュート*スケジュールを設定し、ミュート期間を繰り返す場合は繰り返しを選択してください。ルールごとに複数のミュート期間を追加できるため、週ごとのパッチ適用などの定期的なメンテナンスサイクルに便利です。
6. 「作成」を選択します。

通知ルールを有効または無効にする

個々の通知ルールを有効または無効にすることで、どの条件で通知が発生するかを制御できます。環境に関係のないルールを無効にしてノイズを減らし、ルールを有効にして通知を再び受信できるようにしてください。

手順

1. 左側のナビゲーションから、**Health > Alerts** を選択します。
2. 「通知設定」を選択します。
3. 変更するルールを見つけます。
4. ルールの **Active** スイッチをオンまたはオフに切り替えます。変更はすぐに有効になります。

通知ルールをミュートする

通知ルールをミュートすることで、ルールを無効にすることなく、メンテナンス期間などの計画されたイベント中にアラートの配信を抑制できます。ミュート期間中もアラートは Alerts ページに引き続き表示されま

す。メール、webhook、およびコンソール内通知のみが抑制されます。ミュート期間が終了すると、通知は自動的に再開されます。

1つのルールに複数のミュート期間を追加し、それぞれをスケジュールに基づいて繰り返し実行するように設定できます。

ミュートウィンドウの例

- 一時的なメンテナンス期間：土曜日の夜にストレージシステムのファームウェアアップグレードを実行する場合、その期間中に発生するはずのアラートを抑制したいとします。土曜日の午後10：00から日曜日の午前2：00までをミュート期間として設定し、繰り返しは設定しません。期間が終了すると、通知は自動的に再開されます。
- 毎週の定期的なパッチ適用時間：チームは毎週日曜日の午前0時から午前4時までシステムにパッチを適用します。週単位の繰り返し設定でミュート期間を追加すると、手動で操作することなく、毎週自動的に通知が抑制されます。別のシステムに異なる時間帯の独自のパッチ適用スケジュールがある場合は、独自の開始時刻と繰り返し設定を持つ2つ目のミュート期間を同じルールに追加してください。

手順

1. 左側のナビゲーションから、**Health > Alerts** を選択します。
2. 「通知ルール」を選択します。
3. ルール一覧から、ミュートしたいルールを見つけ、そのルールのアクションメニューを選択します。
4. *Edit*を選択します。
5. 「通知をミュート」セクションで、ミュート期間の開始日時と終了日時を設定します。
6. 必要に応じて、スケジュールに基づいてウィンドウを繰り返すための繰り返し設定を選択します。
7. ミュートウィンドウを追加するには、*ミュートウィンドウを追加*を選択し、前の手順を繰り返してください。
8. 「保存」を選択します。

通知ルールを削除する

不要になった通知ルールは削除してください。ルールを削除すると完全に削除されるため、復元することはできません。

手順

1. 左側のナビゲーションから、**Health > Alerts** を選択します。
2. 「通知設定」を選択します。
3. ルール一覧から削除したいルールを見つけ、そのルールのアクションメニューを選択します。
4. アクションメニューから*削除*を選択してください。

関連情報

- "通知配信の設定"
- "コンソールアラートについて"
- "アラートを表示する"

NetApp Console ローカル展開におけるストレージクラスのドリフトの修正

NetApp Console のローカル展開で、ドリフト関連のアラートを検出し、ドリフトの検出結果を分析し、ストレージクラスの意図と一致しなくなったワークロードを修復します。

必須の役割

Storage Admin

権限が付与されているフリート内のワークロードのみを表示および修復できます。

ドリフトを修正する

ワークロードがストレージクラスの意図と一致しなくなった場合、NetApp Console のローカル展開でアラートが発生します。アラートを使用してドリフトを分析し、推奨される修復措置を適用してください。

アラートから直接、いくつかの対策を適用できます。その他の問題については、ワークロード構成を更新するか、別のストレージクラスを割り当ててコンプライアンスを回復してください。修復ワークフローでは、変更を適用する前に想定される影響が表示されます。

手順

1. 「Storage」>「Storage classes」を選択してください。

   ストレージクラスの変動の概要は、「ストレージクラス別の変動」エリアに表示されます。完全なリストは表に表示されます。

2. 「Drifts」列で、該当するストレージクラスの「View」を選択します。

   「アラート > 概要」ページを開くと、フィルターが適用された状態になります。

3. アラートを選択すると、アラートの詳細ページが開きます。
4. 「分析」を選択します。
5. **Workload analyzer** で結果を確認してください。

   設定のずれが判明した場合は、意図した設定と実際の設定を比較して、何が変更されたかを判断してください。

6. 「Fix it」など、推奨される修復措置を選択してください。
7. 提案された変更内容を確認し、是正措置を適用してください。
8. 「Storage」＞「Storage classes」に戻り、ワークロードがずれた状態として表示されなくなったことを確認してください。

   コンプライアンス評価には、最近の設定変更を反映させるのに数分かかる場合があります。ワークロードが依然として「ずれ」と表示される場合は、アラートの詳細ページに戻り、*分析*を選択して残りの検出結果を確認してください。

関連情報

- "NetApp Console ローカル展開におけるストレージクラスのドリフトとコンプライアンスについて"
- "ストレージアラートについて"
- "アラートを表示する"

NetApp Console ローカル展開におけるアラート修復アクション

このリファレンスを使用して、NetApp Console ローカル展開の **Fix it** で利用可能な修復アクションを確認してください。各アクションについて、表にはそのアクションの内容と関連するアラートが記載されています。実行する前に、確認ダイアログに表示される操作の詳細を確認してください。

是正措置

是正措置	アラート名	アラートの説明	影響範囲	修復の概要
自動ボリューム増加を有効にする	ボリュームがいっぱいです	ボリュームの空き容量が少なくなっており、ほぼ満杯の状態です。	Capacity	容量不足のリスクを軽減するため、ボリュームのサイズを（設定された上限まで）自動的に拡張します。
ボリュームのサイズを変更する	ボリュームがいっぱいです	ボリュームの空き容量が少なくなっており、ほぼ満杯の状態です。	Capacity	ボリュームのサイズを拡大して、すぐに空き容量を増やします。
ボリュームをオンラインにする	ボリュームはオフライン	ボリュームはオフラインで、データを提供していません。	使用の可否	オフライン ボリュームをオンラインにして、データの提供を再開できるようにします。
アグリゲートをオンラインにする	オフライン アグリゲート	アグリゲートがオンラインではないため、そこにホストされているボリュームが利用できない場合があります。	使用の可否	オフライン アグリゲートをオンラインにして、ホストしているボリュームへのアクセスを復元します。
LUNをオンライン化	LUNオフライン	LUNがオフラインのため、ホストからのアクセスはできません。	使用の可否	オフラインになっているLUNをオンラインに戻し、ホストがアクセスとI/Oを再開できるようにします。
ボリュームの制限を解除	ボリュームは制限状態	ボリュームは制限状態にあり、通常の入出力処理ができない可能性があります。	使用の可否	制限付きボリュームをオンライン状態に戻し、クライアントが再びアクセスできるようにします。

是正措置	アラート名	アラートの説明	影響範囲	修復の概要
NVMeネームスペースをオンラインにする	NVMe名前空間がオフラインです	NVMeネームスペースがオフラインのため、ホストからのアクセスはできません。	使用の可否	オフラインになっているNVMeネームスペースをオンラインにして、ホストへのアクセスを復元します。
クラスター間**LIF**を起動する	クラスター間LIFダウン	クラスター間LIFがダウンしており、クラスター間の通信に影響が出ている可能性があります。	接続	レプリケーションに使用されるクラスター間の接続を復元するために、クラスター間 LIF を起動します。
MetroCluster AUSOの再有効化	MetroCluster 自動計画外スイッチオーバーが無効になっています	このクラスターでは、自動的な計画外切り替えは無効になっています。	使用の可否	自動計画外スイッチオーバー（AUSO）を再度有効にして、MetroCluster保護機能が意図どおりに機能するようにします。
サービスプロセッサネットワークの設定	サービスプロセッサが構成されていません	サービスプロセッサ（SP）ネットワークが設定されていません。	管理性	Service Processor （SP）のネットワーク設定を構成して、アウトオブバンド管理アクセスを有効にします。
未割り当てディスクを割り当てる	未割り当てのディスクが検出されました	割り当てられていないディスクが存在し、利用可能な容量が未使用である可能性があります。ディスクをノードに割り当てて、ストレージとして使用できるようにします。	使用の可否	現在割り当てられていないディスクをノードに割り当て、ストレージとして使用できるようにします。
ルートボリュームスペース回復	ノードルートボリュームの空き容量が少ない	ノードのルートボリュームの空き容量が少なく、システムの正常な動作に影響を与える可能性があります。	システム ヘルス	ノードのルートボリューム上の最大のスナップショットまたは最大のコアダンプファイルを削除することで、空き容量を確保します。削除は元に戻せません。

著作権に関する情報

商標に関する情報